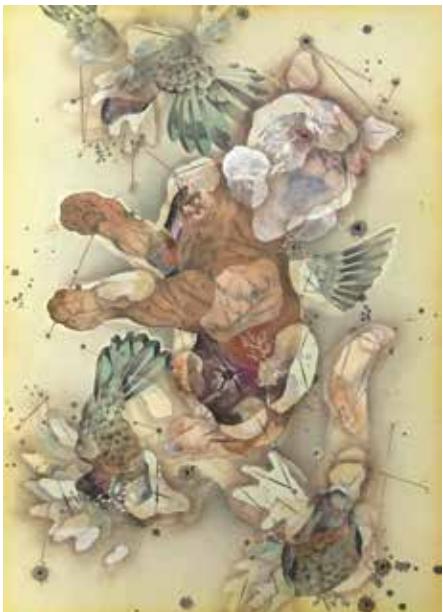
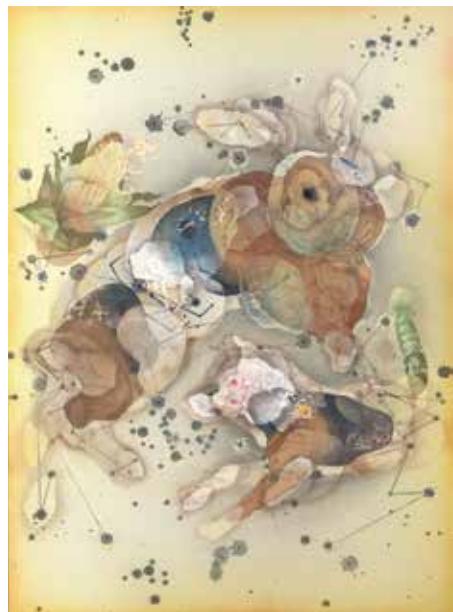


asterism

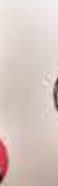


Reina Eto solo exhibition

MEDEL GALLERI SRL

MEDEL
GALLERI
SRL















日本画の延長——江藤玲奈の制作における内部への志向

飯盛 希（美術批評）

江藤の絵画について、方法、主題、素材それぞれの特質を言うならば、点と点を線で結ぶこと、内部を描くこと、そして日本画であるということが挙げられる。

「星回り」シリーズでは、まず画面に墨をランダムに落とし、無数の点をつくるという。夜空の星の配置に何かの形を見出すように、与えられた墨の飛沫から生き物の姿を想像するのである。墨の点どうしを結んだ線は、江藤自身、連想される動物の——輪郭ではなく——骨格なのだと説明しているとおり、「運動」を描いた以前の作品と連続している。「心と体の動き」シリーズや「命の光」シリーズといった旧作では、針金でつくった骨格のようなマケットをもとに、人間や動物の運動を解剖学的に描いた。画面上でスケルトンに「肉付け」をしていくプロセスは、モーションキャプチャーにおいて、マーカーとマーカーとを線で繋ぎ、運動を再現するのと似ている。画家は、このことから星座を連想したのかもしれない。見当のことを目星とも言うように、「星」には目印となる点の意味がある。^{マーカー} そして、星と星とを結ぶ星座線は、たしかに星座絵に対して骨格のように見える。

骨格から絵画が展開していくところに江藤の制作理念がよく反映されている。「運動」を描いたのは——シリーズ名に表れているように——むしろ「心」や「命」へのアプローチが目的だった。内面を表現するために、感情の機微は表面から知ることのできないものとして、肉体を透かし、針金で骨格をつくることから始めたのである。「物語」をテーマにした最近の作品では、その契機を「描く」——点と点を線で結ぶ——ことに求めている。「物語」を駆動させるために、星を結んで神話を連想するのと同様、墨の飛沫を結んだ星座線を引き、主人公となる動物の骨格を描くのである。

今、江藤にとって、点と点——星と星——を線で結ぶことは、内部を描くことと直結している。「描く」ということ自体が内部の表現と関係しているのである。そして、そのことに日本画の絵具それ自体が関係している。天文学において——たとえば北斗七星のように——「座」として登録されていない星の配置のことを「星群」と言うのだが、江藤の描く「星座」はオリジナルのものなので、これに近い。しかし、展覧会のタイトルに asterism ^{エースタリズム} という言葉が採られたのは、鉱物学用語の「星彩」に掛けたからである。それは水晶などの鉱物を透かして見たときに現れる光条を指し、延いては——すべての鉱物がそうというわけではないけれども——岩絵具それ自体が内に輝きを秘めたものであることを意味する。すなわち、岩絵具を使うことが——「心」や「命」あるいは「物語」といった——内部に秘められたものを描くことに結びつけられているのである。

江藤の絵画に特徴的な要素のひとつである——主に小作品で用いられる——砂鉄は、そのことを換喻的に示している。パネルの裏側から磁石で砂鉄を操ることで、磁力線に沿って針状の模様が現れる。それは——鉱物や岩絵具に詳しくない者にも——砂鉄と分かる弁別的なものであり、岩絵具が鉱物でできていることを想起させるようである。砂鉄を絵具として使うのは、鉱物であれば日本画の絵具になりうることを自己言及的に示すと同時に、画家の内部への志向を反映していると言える。

スタッキングを素材に用いた「sign」シリーズは、パネルに打ちつけた釘の頭を星に見立て、それらを結ぶようにスタッキングを引っ掛けることで、動物のかたちを構成した作品である。描線に内在する「物語」を紡ぐという点では「星回り」シリーズと共通しているが、半立体的な作品であり、絵画の制作と比べると例外的に思われるかもしれない。しかし、点と点を線で結ぶという方法が一貫しているだけでなく、素材に関しても、透けるスタッキングは——内臓や筋肉が表現されているように——内部を描くという主題に適っており、岩絵具と互換的な関係にあると言える。江藤の制作においては、スタッキングを使用した作品も日本画の延長に含まれるのである。



sign イノシシ



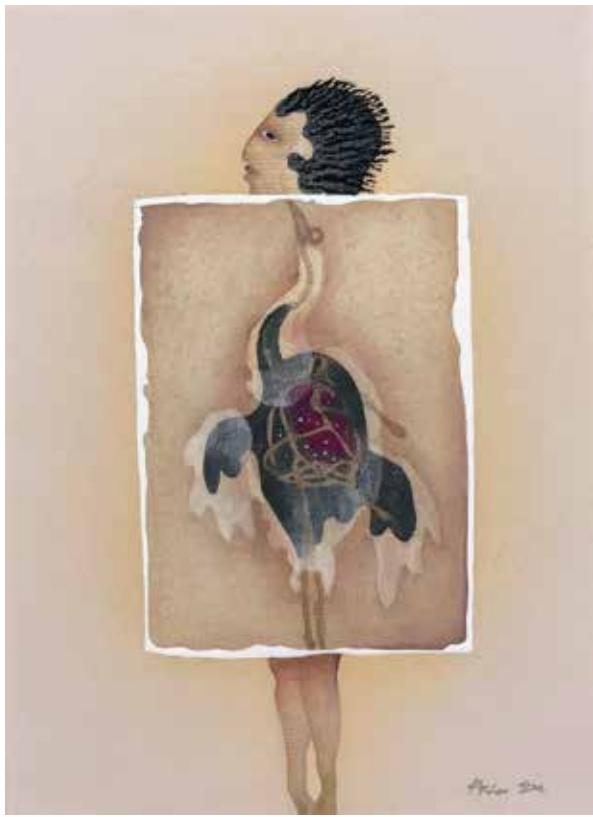
sign ライオン



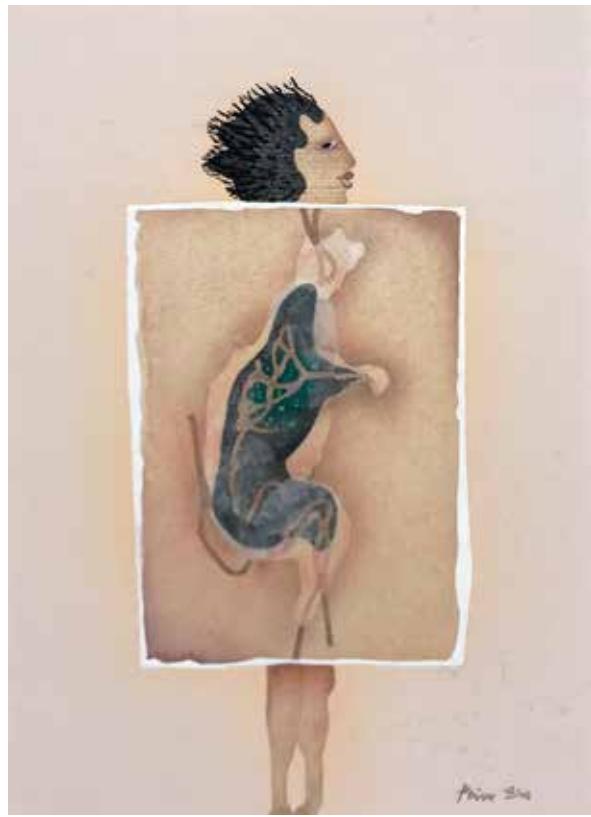
つながる 1



つながる 2



ツル女房



ネズミ女房

MEDEL GALLERY SHU CONTEMPORARY ART REVIEWS

vol.5 江藤玲奈 個展「asterism」

2020年1月13日(月)-1月22日(日)

MEDEL GALLERY SHU

〒100-0011 千代田区内幸町1-1-1 帝国ホテルプラザ 2F

作品リスト：<http://ngmrsk.jp/wp-content/uploads/mgs-car-5-list.pdf>

会場図：<http://ngmrsk.jp/wp-content/uploads/mgs-car-5-map.pdf>

キュレーション：飯盛 希

撮影：松尾 宇人

編集：佐伯 綾希

発行：2021年2月